

選択的評価事項に係る評価

自己評価書

平成 30 年 6 月

阿南工業高等専門学校

- ・ 自己点検・評価結果欄の各項目のチェック欄で「・・・していない」等にチェック（■）した場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄に、その理由等を記述すること。
- ・ （該当する選択肢にチェック■する。）と記載のある項目は、該当する箇所のみチェックを入れること。選択肢全てにチェックを入れる必要はない。
- ・ 自己点検・評価の根拠資料・説明等欄の記号は次のとおり。
 - ◇：明示している根拠資料については、該当資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。資料は、該当箇所がわかるように（ページや行の明示、下線や囲み線を引くなど）して、まとめて自己評価書「根拠資料編」として作成すること。資料を、ウェブサイト等で公表している場合には、ウェブサイト公表資料と付した上で、該当資料名、資料番号を記入し、そのリンク先を欄中に貼付すること。この場合は、自己評価書「根拠資料編」にリンクを貼ったウェブサイト公表資料の一覧を添付すること。
 - ◆：資料等を基に自己点検・評価の項目に係る状況を記述すること。（取組や活動の内容等の客観的事実について具体的に記述し、その状況についての分析結果をその結果を導いた理由とともに記述。）記述は、できるだけ簡潔にし、分量は、200 字以下を目安とすること。なお、「……場合は、」とあるものについては、該当する場合のみ記述すること。また、根拠資料の資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。
- ・ 関係法令の略は次のとおり。

（法）学校教育法、（設）高等専門学校設置基準

I 高等専門学校の現況及び特徴

(1) 現況	
1. 高等専門学校名	阿南工業高等専門学校
2. 所在地	徳島県阿南市
3. 学科等の構成	準学士課程：創造技術工学科 専攻科課程：構造設計工学専攻，電気・制御システム工学専攻
4. 認証評価以外の第三者評価等の状況	特例適用専攻科（専攻名：構造設計工学専攻，電気・制御システム工学専攻） J A B E E 認定プログラム（専攻名：構造設計工学専攻，電気・制御システム工学専攻） その他（なし）
5. 学生数及び教員数 （評価実施年度の5月1日現在）	学生数：852人 教員数：専任教員66人 助手数：0人
(2) 特徴	
<p>1. 沿革</p> <p>阿南工業高等専門学校（以下、「本校」という。）は、昭和38年、機械工学科及び電気工学科の2学科により開校した。昭和42年には土木工学科を設置、その後のいくつかの改組を経て、平成14年には機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科、建設システム工学科の4学科体制となった。さらに平成26年には地元企業の強い要望もあり、創造技術工学科の下に機械コース、電気コース、情報コース、建設コース、化学コースを配置した1学科5コース体制（以下、「準学士課程」もしくは「本科」という。）へと改組を行った。また、平成8年には専攻科（構造設計工学専攻及び電気・制御システム工学専攻）を設置した。</p> <p>平成14年に、本科4、5年次及び専攻科2年間の4年間にわたる「創造技術システム工学」教育プログラムを策定した。そして、平成16年、日本技術者教育認定機構（JABEE）により、工学（融合複合・新領域）関連分野において、同教育プログラムがJABEE認定基準に適合していると認められ、その後、平成21年、27年に継続認定された。また、平成27年には特例適用専攻科となり、修了生はこの特例の適用の下で機械工学、土木工学、電気電子工学の学士の学位が授与されることとなった。</p> <p>2. 理念及び本校の特徴</p> <p>本校は、徳島県や地域産業界からの強い要望に応え、実践的技術者を育成する高等教育機関として設立された。その後、産業構造や社会情勢の変化に対応するための改組を繰り返し、平成26年には地域からの要望により化学コースを新設し、学科の大括り化により1学科5コース制に改組した。</p> <p>この再編は、最近の科学技術分野における融合化・複合化、さらに情報化社会の著しい発展に対応するために行ったものである。その理念は、自身の専門分野だけではなく幅広い工学の知識を身に付け、コミュニケーション能力、情報処理・ICT利用能力などを背景に、将来、創造的なものづくりや課題解決ができ、国際的に活躍できる技術者の養成である。これに基づき、本校の教育目標は「核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち、その方法論・実践力を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもった技術者」を育成することである。本科の1学科5コース制の特色は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次では共通のカリキュラムによって一般科目と各コースの基礎的な内容の専門科目を学び、2年次でコースの再選択を行う希望コースの再選択制度を実施 ・チームで課題を解決する「ものづくり工学」を1年次に、企業等での就業を通して技術的視野を広げ、複合融合知識の重要性を認識させる「校外実習」や、異なる専門コースの学生とともに融合複合知識の結実を求める「共同教育」を4年次に専門共通科目として配当して、一元的な管理を実施 ・情報処理に関する基礎的知識や情報マナーを学ぶ「情報リテラシー」及び、CADを学ぶ「デザイン基礎」を1年次の専門共通科目として配当し、2年次以降は各コースの教育内容に即して情報処理・プログラミング教育を実施 ・一般科目における語学教育として、必修科目18単位、さらに選択科目4単位の英語科目に加え、ドイツ語と中国語から1つを選んで受講できる「第2外国語入門」を新設 ・4年次に、機械、建設、化学コースの学生は「電磁気学」、電気、機械コースの学生は「熱力学」を履修でき、5年次 	

では他のコースの定められた専門科目を最大 6 単位履修できる「副専門制」を導入

専攻科は「創造技術システム工学」教育プログラムに基づき、本科に比べより専門的な知識と技術を学ぶ教育課程である。その特色は次のとおりである。

- ・両専攻とも定員は 8 名であり、少人数教育によるきめ細かな教育研究指導を実施
- ・1 年次の後期は 12 月から始まるため、8 月中旬より最長 3 ヶ月半のインターンシップを実施
- ・海外協定校へ、インターンシップ期間を利用して留学が可能
- ・修了には研究成果を論文にまとめ、学会等で発表することを必要としているため、研究の過程を一通り学ぶことが可能

地域社会との連携では、地域連携・テクノセンターを置き、共同研究や受託研究などの産学連携活動を推進している。また、平成 7 年に阿南工業高等専門学校を支援する企業等の会として発足した「ACT フェローシップ」と連携し、講演会や研究報告会の開催、学内研究者との交流会などを行い、地域企業との連携強化を行っている。

国際交流については、社会の一層のグローバル化に対応し、異なる文化を持つ人々とともに仕事ができる真の国際人の養成を行うため、平成 21 年に国際交流室を設置した。国際交流室では、海外の大学等との学生相互派遣などに関する協定の締結を積極的に推進し、これまでに海外の 14 機関（アメリカ、ドイツ、韓国、ベトナム、インドネシア、台湾、ニュージーランド）と締結した。さらに、本校学生の海外語学研修のサポート、海外からの留学生の受入・支援プログラム等の充実も図っている。

II 目的

1. 使命

本校は、校訓「真理・創造・礼節」を核に、この校訓を尊ぶ学生を育成することを使命としている。すなわち、本校教育により、「学生は、将来、有為な技術者として崇高な矜持と旺盛な責任感をもち、国家社会のために貢献しうる人物となるため、① 真理を愛し、科学的叡智の円満な発達を心掛ける。② 学業に専念するとともに規律を重んじ、礼儀を厳正にする。③ 勤労に親しみ、強固な意志と頑健な身体を鍛錬する。」ことを達成することを目指している。

(「高専生活のてびき」見返し)

2. 目的

2. 1 学校の目的

本校は、教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づいて深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(阿南工業高等専門学校学則第1条)

2. 2 準学士課程の目的

学科における教育目的は、次のとおりとする。

創造技術工学科は、社会人・職業人として必要な一般教養と国際化対応能力、工学分野のものづくりに共通して必要な基礎的知識・技術と情報処理能力、核となる分野に関する知識・技術と他分野の専門知識を教授し、様々な産業分野で幅広い課題について解決あるいは対応できる人材の育成を目的とする。各コースの核となる知識・技術とは次のとおりとする。

- (1) 機械コースは、機械の力学、加工、材料及び制御に関する機械工学の知識と技術、機械システムの設計と製造で必要とされる実践的な知識と技術とする。
- (2) 電気コースは、電気エネルギーから電子情報通信に及ぶ電気電子工学の知識と技術、電気・電子回路の設計・製作・解析で必要とされる実践的な知識と技術とする。
- (3) 情報コースは、コンピュータを利用して制御を行うための計測・制御・情報工学の知識と技術、情報通信システムおよび制御システムの調査・分析・設計で必要とされる実践的な知識と技術とする。
- (4) 建設コースは、環境や情報の分野を融合した建設工学の知識と技術、構造物の建設や環境保全で必要とされる実践的な知識と技術とする。
- (5) 化学コースは、無機化学から有機化学に及ぶ材料や化学工学の知識と技術、材料開発、化学プラント開発、化学薬品製造で必要とされる実践的な知識と技術とする。

(阿南工業高等専門学校学則第7条の2)

2. 3 専攻科課程の目的

専攻科は、学科における教育の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。専攻科課程を通して、核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち、その方法論・実践論を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもった技術者の育成を図る。各専攻の核となる専門的知識と技術は、次のとおりとする。

- (1) 構造設計工学専攻は、機械工学、建設工学に関する研究課題を解決するために必要な力学、加工、材料、制御、環境、構造物の設計などの知識と情報収集、整理、研究遂行のための技術とする。
- (2) 電気・制御システム工学専攻は、電気電子工学、情報工学に関する研究課題を解決するために必要な電気回路、デジタル回路、ロボット制御、計測、プログラミングなどの知識と情報収集、整理、研究遂行のための技術とする。

(阿南工業高等専門学校学則第29条)

3. 阿南工業高等専門学校の教育目標

3. 1 阿南工業高等専門学校の教育目標 (本科)

阿南工業高等専門学校が育成をめざす技術者像

「核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち、その方法論・実践力を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもった技術者」

このような技術者の育成をめざして、以下の5項目(A)～(E)を本校の教育目標とする。また、それらを具体的に説明したものが(A)－1～(E)－3である。

- (A) 国際人としての教養を高め、人間社会や自然環境に対する責任感及び倫理観について考えられる技術者
- (A) - 1 : 世界的視野から日本の文化、社会並びに他国の文化、社会を複眼的にとらえられる。
 - (A) - 2 : 人間社会に対する技術者としての責任を自覚し、自己の倫理観を深められる。
 - (A) - 3 : 自然環境に対する認識を深められる。
- (B) 社会が要求している問題を見出し、数学・自然科学・情報技術を利用した問題解決に取り組める技術者
- (B) - 1 : 校外実習などを通じて社会が要求している問題を見出せる。
 - (B) - 2 : 線形代数、微積分、微分方程式などに関する知識を用いた問題解決に取り組める。
 - (B) - 3 : 力学、電磁気学などの物理や化学に関する知識を用いた問題解決に取り組める。
 - (B) - 4 : 情報技術に関する知識を運用できる。
- (C) 日本語で論理的に記述・討論する経験を積み、専門分野において国際的にコミュニケーションがとれ、口頭発表ができる技術者
- (C) - 1 : 日本語で科学技術論文を作成できる。
 - (C) - 2 : 自分の研究成果あるいは学習内容を日本語で聴講者にわかりやすく口頭発表でき、論理的な討論ができる。
 - (C) - 3 : 英語による基本的なコミュニケーションができる。
- (D) 継続して専門技術や知識を学習する習慣をみがき、複合的な技術開発を進められる能力を高めた技術者
- (D) - 1 : 設計・システム系、情報・論理系、材料・バイオ系、力学系を含む工学の基礎となる学問分野について、自主的かつ継続的に学習できる。
 - (D) - 2 : 専門分野における工学的問題の解決を通じて、その専門技術と知識の研鑽を継続的に積み上げられる。
 - (D) - 3 : みずからの専門分野において、複合的な視野で問題点を把握できる。
 - (D) - 4 : 技術開発を進めるに際して、安全、環境に対する認識を深められる。
- (E) 「ものづくり」を重視し、技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力を高めた技術者
- (E) - 1 : 与えられた製作課題をデザイン能力を活かして設計図等として表現できる。
 - (E) - 2 : 与えられた製作課題を計画的に製作できる。
 - (E) - 3 : 多様な条件の下で、技術的構想や創造的思考を卒業研究としてまとめられる。

(「高専生活のてびき」前付)

3. 2 阿南工業高等専門学校の教育到達目標 (専攻科・JABEE 共通)

阿南工業高等専門学校が育成をめざす技術者像

「核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち、その方法論・実践力を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもった技術者」

このような技術者の育成をめざして、以下の5項目 (A) ~ (E) を本校の教育到達目標とする。また、それらを具体的に説明したものが (A) - 1 ~ (E) - 3 である。

- (A) 国際人としての教養を身につけ、人間社会や自然環境に対して責任感及び倫理観をもつ技術者
- (A) - 1 : 世界的視野から日本の文化、社会並びに他国の文化、社会を複眼的にとらえて、両者のあるべき関係について説明できる。
 - (A) - 2 : 人間社会に対する技術者としての責任を自覚し、自己の倫理観を説明できる。
 - (A) - 3 : 自然環境を考慮した技術開発を進めるための問題点を説明できる。
- (B) 社会が要求している問題を見出し、数学・自然科学・情報技術を利用しながら問題解決を計画的に遂行できる技術者
- (B) - 1 : インターンシップ、工学セミナーなどを通じて社会が要求している問題を見出せる。
 - (B) - 2 : 線形代数、解析学などに関する知識を応用して問題解決を遂行できる。
 - (B) - 3 : 力学、電磁気学、熱力学などの物理や化学に関する知識を応用して問題解決を遂行できる。
 - (B) - 4 : 情報技術に関する知識を応用して問題解決を遂行できる。
- (C) 日本語で論理的に記述・討論ができ、専門分野において国際的にコミュニケーションがとれ、表現力豊かに口頭発表ができる技術者
- (C) - 1 : 日本語で科学技術論文を作成できる。
 - (C) - 2 : 自分の研究成果を日本語で聴講者にわかりやすく口頭発表でき、論理的な討論できる。

- (C) - 3 : 英語によるコミュニケーションができ、専門分野において英語による口頭発表ができる。
- (D) 継続して専門技術や知識を学習する習慣を身につけ、複合的な技術開発を進められる能力をもった技術者
- (D) - 1 : 設計・システム系, 情報論理系, 材料バイオ系, 力学系を含む工学の基礎となる幅広い学問分野について、自主的かつ継続的に学習できる。
- (D) - 2 : 専門分野における工学的問題の解決を通じて、その専門技術と知識の統合及び研鑽を継続的に積み上げられる。
- (D) - 3 : 他の専門分野の知識も身につけ、複合的な視野で問題点を把握できる。
- (D) - 4 : 技術開発を進めるに際して、安全, 環境について配慮すべき事柄を認識し、説明できる。
- (E) 「ものづくり」を重視し、技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力を有する技術者
- (E) - 1 : 自ら設定した製作課題をデザイン能力を活かして設計図等として表現できる。
- (E) - 2 : 自ら設定した製作課題を計画的に製作できる。
- (E) - 3 : 工学知識や技術を統合し、技術的構想や創造的思考を特別研究としてまとめられる。

(「高専生活のてびき」前付)

Ⅲ 選択的評価事項の自己評価等

選択的評価事項A 研究活動の状況

評価の視点	
A-1 高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。	
観点A-1-① 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。	
関係法令	(設)第2条第2項
【留意点】	
○ なし。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 定めている <input type="checkbox"/> 定めていない	◇定めていることがわかる資料 資料A-1-①-(1)-1 (P1) 「研究活動に関する目的、基本方針、目標等を定めていることを示す資料」
観点A-1-② 研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。	
【留意点】	
○ 観点A-1-①の研究活動に関する目的、基本方針、目標等を達成するための、実施体制、設備等を含む研究体制及び支援体制の整備状況・活動状況について分析すること。	
○ 実施体制の整備については、研究に携わる教員等の配置状況、センター等設置状況を示すこと。	
○ 研究活動状況については、共同研究等、他研究機関や地域社会との連携体制及びその機能状況等の具体例を示すこと。	
関係法令	(設)第2条
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する <input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための実施体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない	◇目的等ごとに、実施体制が整備されていることがわかる資料 【目的：全体】 資料A-1-②-(1)-1 (P2) 「運営委員会が教育研究及び地域連携・テクノセンターの運営方針を審議する組織であることを示す資料」 資料A-1-②-(1)-2 (P3) 「地域連携・テクノセンター委員会が地域連携等に関する事項を審議する組織であることを示す資料」 資料A-1-②-(1)-3 (P4) 「地域連携・テクノセンターが教育活動の目的を支援する組織であることを示す資料」 資料A-1-②-(1)-4 (P5) 「地域連携・テクノセンターの活動をHPで説明して産学連

	<p>携等を広報していることを示す資料」 http://www.anan-nct.ac.jp/research/techno/ 資料A-1-②-(1)-5 (P6) 「地域連携・テクノセンターの平成30年度の担当者を示す資料」 資料A-1-②-(1)-6 (P7) 「受託研究の取扱いについて定めた規則を示す資料」 【教員等の配置】 資料A-1-②-(1)-7 (P8) 「研究に携わる教員の配置状況とその教育研究内容・成果等が公表されていることを示す資料」 http://www.anan-nct.ac.jp/research/researchers/ 資料A-1-②-(1)-8 (P9) 「国立高専研究情報ポータルにより教員の研究等に関する情報が公表されていることを示す資料」 https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list/?page=1&limit=30&districtId=07&affiliationId=6672000000</p>
<p>(2) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための設備等を含む研究体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない</p>	<p>◇目的等ごとに、研究体制が整備されていることがわかる資料 【目的：専門研究・社会貢献】 資料A-1-②-(2)-1 (P10) 「創造テクノセンター棟の利用目的を明記した資料」 資料A-1-②-(2)-2 (P11) 「創造テクノセンター棟の平面図を示す資料」 資料A-1-②-(2)-3 (P12) 「平成29年度に創造テクノセンター棟の各部屋で行われた研究の内容を示す資料」 【目的：自己研鑽・教育内容の充実】 資料A-1-②-(2)-4 (P13) 「化学コースで使用している研究用機材の一覧を示す資料」 資料A-1-②-(2)-5 (P14) 「教員が管理する設備等が国立高専研究情報ポータルの研究・技術シーズに記されていることを示す資料」</p>
<p>(3) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための支援体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している <input type="checkbox"/> 整備していない</p>	<p>◇目的等ごとに、支援体制が整備されていることがわかる資料 【目的：全体】 資料A-1-②-(3)-1 (P15) 「技術部の所掌業務に教育研究支援や地域貢献業務等があることを示す資料」 資料A-1-②-(3)-2 (P16) 「技術部の組織を表す資料」 http://www.anan-nct.ac.jp/facility_guide/technical/soshiki-staff/ 資料A-1-②-(3)-3 (P17) 「ACTフェロシップが教育・研究や産官学の共同研究等</p>

	<p>を助成する組織であることを示す資料」</p> <p>【目的：専門研究・社会貢献】</p> <p>資料A-1-②-(3)-4 (P18) 「研究支援・地域連携や外部資金に関する業務は総務課が担当していることを示す資料」</p> <p>資料A-1-②-(3)-5 (P19) 「研究を遂行する際に必要となる文献の複写を図書館が受託することを示す資料」</p> <p>【目的：自己研鑽】</p> <p>資料A-1-②-(3)-6 (P20) 「テクノセンター主催で科研費の採択を目的としたセミナーを実施していることを示す資料」</p> <p>資料A-1-②-(3)-7 (P21) 「外部資金獲得推進のために実施しているセミナー等の題目が明記されている資料」</p> <p>資料A-1-②-(3)-8 (P22) 「外部資金の獲得を目的とした様々なセミナーを行い、総務課から案内を送っていることを示す資料」</p> <p>資料A-1-②-(3)-9 (P23) 「ACTフェロシップ特別講演会及び阿南高専交流会を行っていることを示す資料」</p>
<p>(4) (1)～(3)の体制の下、研究活動が十分に行われているか。</p> <p>■行われている □行われていない</p>	<p>◇研究活動の実施状況がわかる資料</p> <p>資料A-1-②-(4)-1 (P24) 「2017年の地域連携・テクノセンターの活動に関する報告書を示す資料」 http://www.anan-nct.ac.jp/wp-content/uploads/2018/02/h29houkokusho.pdf</p> <p>資料A-1-②-(4)-2 (P25) 「学術進展への即応を目指した研究活動が行われていることを示す資料」 http://www.anan-nct.ac.jp/wp-content/uploads/2018/02/h29houkokusho.pdf</p> <p>資料A-1-②-(4)-3 (P26) 「共同研究を目的とした活動が行われていることを示す資料」 http://www.anan-nct.ac.jp/wp-content/uploads/2018/02/h29houkokusho.pdf</p> <p>資料A-1-②-(4)-4 (P27) 「教育内容の充実を目的とした研究活動が行われていることを示す資料」 http://www.anan-nct.ac.jp/wp-content/uploads/2018/02/h29houkokusho.pdf</p> <p>資料A-1-②-(4)-5 (P28) 「技術室による教育研究支援活動の実施状況を示す資料」</p> <p>資料A-1-②-(4)-6 (P29) 「地域貢献としてのLED応用技術者セミナーの実施状況を</p>

	示す資料
<p>観点A-1-③ 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。</p> <p>【留意点】</p> <p>○ 研究活動の目的等に照らして、どの程度活動の成果があげられているか、目的の達成度について実績等を示すデータ等を提示すること。</p> <p>○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、目的に照らした研究の成果及び目的の達成度について資料を提示すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 学校が設定した研究活動の目的等に照らして、成果が得られているか。</p> <p>■得られている</p> <p>□得られていない</p>	<p>◇目的等ごとに、活動の成果がわかる資料</p> <p>【目的：全体】</p> <p>資料A-1-③-（1）-1（P30） 「最近の外部資金受け入れ状況を示す資料」</p> <p>【目的：専門研究・教育】</p> <p>資料A-1-③-（1）-2（P8） 「研究に携わる教員の配置状況とその教育研究内容・成果等が公表されていることを示す資料」（再掲） http://www.anan-nct.ac.jp/research/researchers/</p> <p>【目的：専門研究・社会貢献】</p> <p>資料A-1-③-（1）-3（P31） 「研究活動の成果が国立高専研究情報ポータル研究者情報により公表されていることを示す資料」 https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list/?page=1&limit=30&districtId=07&affiliationId=667200000</p> <p>【目的：教育】</p> <p>資料A-1-③-（1）-4（P32） 「研究活動の中で科学研究費補助金を獲得できたことを示す資料」</p> <p>資料A-1-③-（1）-5（P34） 「科学研究費補助金獲得の成果を示す資料」</p> <p>【目的：専門研究・社会貢献・教育】</p> <p>資料A-1-③-（1）-6（P35） 「研究活動の成果により民間等との共同研究が実施できていることを示す資料」</p> <p>資料A-1-③-（1）-7（P36） 「研究活動の成果が受託研究に結びついたことを示す資料」</p> <p>資料A-1-③-（1）-8（P37） 「研究活動の成果により各種の競争的資金が獲得できたことを示す資料」</p> <p>資料A-1-③-（1）-9（P38） 「研究活動の成果に基づき特許を出願・登録していること</p>

	<p>を示す資料」</p> <p>【目的：教育内容の充実】</p> <p>資料A-1-③-（1）-10（P39）</p> <p>「教育内容の充実に向けて行われた研究活動の実績（平成28年度以降）を示す資料」</p>
<p>観点A-1-④ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 組織の役割、人的規模・バランス、組織間の連携・意思決定プロセス・責任の明確化等がわかる資料を提示すること。 ○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。 ○ 研究活動等の実施状況や問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。 	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 観点A-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇改善の体制がわかる資料</p> <p>【組織の役割】</p> <p>資料A-1-④-（1）-1（P4）</p> <p>「地域連携・テクノセンターが教育活動の目的を支援する組織であることを示す資料」（再掲）</p> <p>【人的規模・バランス】</p> <p>資料A-1-④-（1）-2（P6）</p> <p>「地域連携・テクノセンターの平成30年度の担当者を示す資料」（再掲）</p> <p>【連携・責任等】</p> <p>資料A-1-④-（1）-3（P2）</p> <p>「運営委員会が教育研究及び地域連携・テクノセンターの運営方針を審議する組織であることを示す資料」（再掲）</p> <p>資料A-1-④-（1）-4（P3）</p> <p>「地域連携・テクノセンター委員会が地域連携等に関する事項を審議する組織であることを示す資料」（再掲）</p> <p>◆学校が設定した研究活動の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。</p> <p>【事例1】</p> <p>地域連携・テクノセンター委員長が、高専機構本部より通知された保有特許の整理、知的財産権の基本方針に対応するためには、本校の知的財産の取扱いの申し合わせが必要と判断し、原案を作成して地域連携・テクノセンター委員会において審議した（資料A-1-④-（1）-5，P40）</p> <p>「高専機構本部の基本方針に基づき知的財産取扱いに関する</p>

	<p>る申し合わせ事項を審議したことを示す資料)。その後、運営委員会に報告を行った(資料A-1-④-(1)-6, P41「知的財産取扱いに関する申し合わせ事項を運営委員会で報告したことを示す資料」)。</p> <p>【事例2】 地域連携・テクノセンター委員長が、創造テクノセンター棟利用細則の不備により各室が有効に利用されていないとして、各室の利用規則を再検討するとした。2回の地域連携・テクノセンター委員会での審議を経て、利用の申し合わせ事項を決定した(資料A-1-④-(1)-7, P42「創造テクノセンター棟各室の利用に関する申し合わせ事項を審議したことを示す資料」)。その後、運営委員会に報告を行った(資料A-1-④-(1)-8, P44「創造テクノセンター棟各室の利用に関する申し合わせ事項を運営委員会で報告したことを示す資料」)。</p> <p>【事例3】 地域連携・テクノセンター委員長が、平成30年度に受審する機関別認証評価において研究活動の基本方針と目的の制定が必要であると判断し、原案を作成して審議の上、決定した(資料A-1-④-(1)-9, P45「研究活動の基本方針と目的の制定について審議したことを示す資料」)。委員長は、本件の重要性に鑑み、運営委員会においても審議する必要があると判断し、運営委員会においても審議され、制定された(資料A-1-④-(1)-10, P46「研究活動の基本方針と目的を運営委員会において審議したことを示す資料」)。</p>
<p>A-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>該当なし</p>	

<p>選択的評価事項A 目的の達成状況の判断</p>
<p><input type="checkbox"/> 目的の達成状況が非常に優れている</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目的の達成状況が良好である</p> <p><input type="checkbox"/> 目的の達成状況がおおむね良好である</p> <p><input type="checkbox"/> 目的の達成状況が不十分である</p>

<p>選択的評価事項A</p>
<p>優れた点</p>
<p>研究活動の基本方針と目的を明確に定め、地域連携・テクノセンター委員会を中心に阿南高専助成会(ACTフェローシップ)と連携して、地域企業との共同研究や外部資金獲得の体制ができ、実際に「地域連携・テクノセンター研究報告書」に記載されているように、教育研究活動や社会貢献に実を結んでいる。</p>
<p>改善を要する点</p>

該当なし

選択的評価事項B 地域貢献活動等の状況

<p>評価の視点</p> <p>B-1 高等専門学校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。</p>	
<p>観点B-1-① 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第107条 (設)第21条</p>
<p>【留意点】</p> <p>○ なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>(1) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。</p> <p>■定めている</p> <p>□定めていない</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p> <p>◇定めていることがわかる資料</p> <p>資料B-1-①-(1)-1 (P47)</p> <p>「地域貢献活動等について目的、基本方針が策定されていることを示す資料」</p> <p>資料B-1-①-(1)-2 (P48)</p> <p>「地域貢献活動を主体として実施する部局の存在に関する資料」</p> <p>資料B-1-①-(1)-3 (P49)</p> <p>「地域貢献活動を支援する団体に関する資料」</p>
<p>観点B-1-② 地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 実施体制について分析することは必須ではない。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第107条 (設)第21条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>(1) 学校が設定した地域貢献活動等について、具体的な方針を策定しているか。</p> <p>■策定している</p> <p>□策定していない</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p> <p>◇具体的な方針が策定されていることがわかる資料</p> <p>資料B-1-②-(1)-1 (P50)</p> <p>「地域貢献活動等について具体的な方針が策定されていることを示す資料」</p> <p>資料B-1-②-(1)-2 (P51)</p> <p>「テクノセンターにおいて具体的な方針が策定されていることを示す資料」</p> <p>資料B-1-②-(1)-3 (P52)</p> <p>「助成会の地域貢献活動等への関わりを示す資料」</p>
<p>(2) (1)の方針に基づき計画的に実施しているか。</p> <p>■実施している</p> <p>□実施していない</p>	<p>◇実施状況がわかる資料</p> <p>資料B-1-②-(2)-1 (P53)</p> <p>「地域貢献活動等が計画的に実施されていることを示す資料」</p> <p>資料B-1-②-(2)-2 (P56)</p>

	<p>「公開講座の実施状況を示す資料」 資料B-1-②-(2)-3 (P57)</p> <p>「地元企業の技術者向けの研修の実施内容を示す資料」 資料B-1-②-(2)-4 (P58)</p> <p>「地元企業の技術者向けの研修の実施スケジュールを示す資料」</p>
<p>観点B-1-③ 地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、活動の成果がわかる資料を提示すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>(1) 学校が設定した地域貢献活動等の目的等に照らして、成果が認められるか。</p> <p>■認められる □認められない</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p> <p>◇活動の成果がわかる資料（活動別参加者数、参加者・利用者アンケート等） 資料B-1-③-(1)-1 (P59)</p> <p>「地域貢献活動等が目的に即した成果が認められる資料」 資料B-1-③-(1)-2 (P61)</p> <p>「地域貢献活動（公開講座）のアンケートに関する資料」</p>
<p>観点B-1-④ 地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。</p> <p>○ 地域貢献活動等に関する問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する □満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>(1) 観点B-1-③で把握した結果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している □整備していない</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p> <p>◇改善の体制がわかる資料 資料B-1-④-(1)-1 (P62)</p> <p>「地域貢献活動等の問題点を把握し、改善に結び付けるための体制を整備しているかがわかる資料」 資料B-1-④-(1)-2 (P63)</p> <p>「地域貢献活動等の問題点を検討している例を示す資料」</p> <p>◆学校が設定した地域貢献活動等の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。 該当なし</p>

B-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。
該当なし

選択的評価事項B 目的の達成状況の判断
<input type="checkbox"/> 目的の達成状況が非常に優れている <input checked="" type="checkbox"/> 目的の達成状況が良好である <input type="checkbox"/> 目的の達成状況がおおむね良好である <input type="checkbox"/> 目的の達成状況が不十分である

選択的評価事項B
優れた点
地域連携・テクノセンターの地域連携部門が中心となり、阿南市との提携を基礎とする研究貢献が継続的に行われている。地元住民に対して開いている公開講座も盛況であり、地元企業に対しては助成会であるACTフェロシップが仲立ちとなり、講演会、受託研究、共同研究が活発になされている。
改善を要する点
該当なし